

## 1 題材名 ハートビーイング

## 2 題材設定の理由

クラスの仲良しの友達同士でも、お互いに何の気なしに、面白半分に言ったことが相手を深く傷つけてしまうことがある。言葉のもつ力は大きい。言葉が人の心に与える影響について知り、相手を考えながら温かい言葉をかけようとする意識をもたせたい。そして、事前に学習した温かい言葉かけのスキルを日常の生活で実践していく態度を育てたいと考え、本題材を設定した。

## 3 児童の実態（平成〇〇年〇月〇日調べ 2年〇組 男〇名 女〇名 合計〇〇名）

- |   |  |
|---|--|
| 1 | おともだちの言葉で、うれしくなったことはありますか。<br>はい 〇名 いいえ 〇名 |
| 2 | おともだちの言葉で、悲しくなったことはありますか。<br>はい 〇名 いいえ 〇名  |

## 4 指導のねらい

- 言葉が人の心に与える影響について知り、人が嬉しくなる言葉を使いながら、人と良好なかかわりをもとうとする意識を育てる。
- 人が言われて嬉しいと感じるような、温かい言葉のかけ方を覚える。

## 5 学習計画及び評価基準

月 日	過程	活動の場	活 動 内 容	評 価 基 準
〇月〇日	事前	休み時間	アンケート実施	自分が日常聞いて嬉しくなる言葉や悲しくなる言葉について振り返り、言葉遣いについての課題を見つけようとしている。 (関心・意欲・態度)
〇月〇日	本時	学級活動	言葉が人の心に与える影響について知り、人と良好な関わりをもてるような温かい言葉かけを理解し、実践していこうとする態度を育てる。	言葉が人の心に与える影響について知り、言葉の大切さを理解している。 (知識・理解) 人が嬉しくなる言葉について理解している。 (知識・理解) 人に対して、嬉しくなる温かい言葉を使って生活していこうとしている。 (思考・判断)
〇月〇日	事後	教室その他	生活の中で、悲しくなる言葉は使わず、嬉しくなる言葉を上手に使いながら生活する。	嬉しくなる言葉を上手に使いながら人とコミュニケーションをとることができる。 (技能・表現)

## 6 本時の指導

## (1) 目標

- 言葉はエネルギーをもっており、言葉のエネルギーは人の心を元気付けたり、深く傷つけたりすることを理解する。
- 今までの生活について振り返り、これからは嬉しくなる言葉を多く使いながら、良好な人間関係を築くように過ごそうとする態度を身に付ける。

## (2) 準備・資料

- ①アンケート結果 ②ワークシート ③ハートのカード（ピンク・水色） ④模造紙 ⑤茶封筒  
⑥のり、はさみ

活動内容	指導上の留意点（評価は㊦）		準備物
	T 1	T 2	
<p>1 ウォーミングアップを行う。 「おちたおちた」 ・教師が前へ出て「おーちたおちた」と言い、児童が「なーにおちた？」とリズムよく答える。 「リンゴ」→口をあける動作をする。 「かみなり」→おへそを隠す 「げんこつ」→頭を守る</p>	<p>楽しい雰囲気を作りながら「聞くこと」が意識できるようにする。</p> <p>・前へ出て、児童の様子を見ながらゲームを進めていく。 ・すぐに反応ができない児童のために、リンゴなどの絵カードを作り、同時に出すようにする。</p>	<p>・配慮の必要な児童に丁寧に説明し、ゲームのルールを理解させる。 ・タンバリンでリズムをとりながら、楽しい雰囲気づくりができるようにする。</p>	<p>絵カード 「リンゴ」 「かみなり」 「げんこつ」</p>
<p>2 今まで人から言われて悲しかった言葉を思い出して、ワークシートの外側に書く。</p> <p>3 その中から一番悲しかった言葉を小さなブルーのハートに書く。</p> <p>4 同様に、今まで人から言われて嬉しかった言葉をハートの内側に書く。</p> <p>5 その中から一番嬉しかった言葉を小さなピンクのハートに書く。</p> <p>6 黒板に貼ってある模造紙のハートの外側にブルーのハートを、内側にピンクのハートをのりで貼っていく。</p>	<p>最初に教師が自分の例を提示し、どのような言葉があるかを児童に考えさせる。</p> <p>・児童のワークシートを見て回りながら、なかなか書けない児童に対して援助する。</p>	<p>・作業内容について丁寧に説明し、配慮が必要な児童が分かるようにする。 ・配慮が必要な児童が悲しかった言葉と嬉しかった言葉をどちらも書けるように援助する。</p>	<p>ワークシート</p> <p>ピンクとブルーのハート型のカード</p> <p>サインペン</p>
<p>7 振り返りシートを記入する。 ・今日の活動で感じたことをシートに記入する。</p> <p>8 自分の感じたことを発表する。</p>	<p>日常生活の中で、ピンクとブルーのどちらの言葉が多いかを考えさせる。</p> <p>言葉はエネルギーをもっており、言葉のエネルギーは人の心を元気付けたり、深く傷つけたりすることを確認する。</p> <p>授業の最後に「人を悲しませるような言葉はこうして閉じ込めてしまいます。」と言って、児童の前でハートの形に沿ってはさみで切る。ハートの外側は折りたたんで封筒に封印する。</p> <p>㊦ 言葉は使い方によって人を元気付けたり傷つけたりすることが理解できたか。</p> <p>㊦ 嬉しくなるような言葉を意識して使いながら良好な人間関係を築こうとする意識がもてたか。</p>	<p>振り返りシート（資料2）</p> <p>はさみ</p>	

## 7 事後指導

- ・ハートの型紙は、「人に言われて嬉しい言葉」という掲示物にして、教室に掲示する。
- ・その後日常生活で児童が人に対して思いやりの言葉や乱暴な言葉を使っているときは、この授業を思い出させ、自分の言動を振り返らせるようにする。

## 8 使用した資料

- ◎模造紙に大きなハート（黄緑の部分）を書き、外側はブルーのハートをはり、内側はピンクのカードを貼る。大きなハートを線に沿って切り、外側は茶封筒に封印する。ハートは写真のように、教室に掲示する。

